

東 洋 水 産 か ら
株 主 の 皆 様 へ
2008年4月1日～
2009年3月31日

第61期 決算のご報告

 TOYO SUISAN 東洋水産株式会社

証 券 コ ー ド : 2 8 7 5



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。



株主の皆様へ



代表取締役社長 堤 殷

株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。さて、当社第61期（2009年3月期）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は1953年の創業以来50余年にわたり、顧客第一主義に基づき、「お客様により良い商品、サービスを提供することにより社会に貢献する」べく、創業時の水産物に始まり、1956年の魚肉ハム、ソーセージ、1962年のインスタント袋麺、1975年の生麺「3食入り焼そば」、1978年の「赤いきつね」並びに1980年の「緑のたぬき」の発売などマルちゃんブランドのもと、「安全でおいしい商品」「確実なサービス」をお客様にお届けする

ことを目指してまいりました。

グローバル化の進展により、これまでの産業構造が大きく変化している現在、食品業界は、個人消費の低迷、原材料価格の高騰、販売競争の激化と大変厳しい環境にあります。今後も法律を遵守し、「安全」、「安心」な商品をお客様にお届けするという基本を守るとともに、更なる発展を目指し、消費者ニーズにマッチした新商品の開発並びに育成、生産・販売・物流体制の効率化など「将来の収益確保」「経営効率の向上」を進めてまいります。

これからも株主の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2009年6月

営業の概況

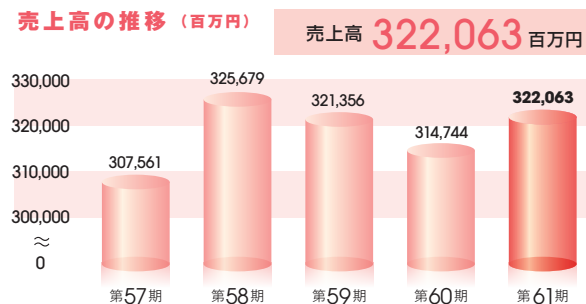
当連結会計年度におけるわが国経済は、米国に端を発した世界的金融危機により景気後退が本格化する中、急速な減産の動きにより企業収益は大幅に減少し、雇用情勢も悪化し個人消費は減少に転じました。また、今後につい

ても世界的な金融危機の更なる深刻化や景気の一層の下振れも懸念されています。

当食品業界においては、一部原材料価格が引き続き高水準で推移し、製造コストの削減に迫られるなど企業間競

連結決算ハイライト

売上高の推移（百万円）



営業利益の推移（百万円）





争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。また、消費者の食の安全面に対する意識はより一段と高まり、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応、環境問題への対応など企業の社会的責任がますます求められております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組んでまいり

ました。また、厳しい販売競争に対応するため、グループの生産・物流体制の再構築を進め、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は前連結会計年度に比べ 2.3% 増収の 322,063 百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ 23.5% 増益の 24,978 百万円、経常利益は前連結会計年度に比べ 18.1% 増益の 26,716 百万円、当期純利益は前連結会計年度に比べ 21.5% 増益の 13,829 百万円となりました。

次期の見通し

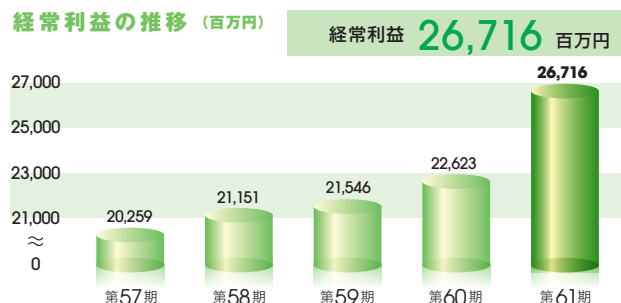
次期（2010 年 3 月期）の見通しにつきましては、世界的な金融危機の更なる深刻化や世界景気の一層の下振れが懸念される中、日本経済にも大きな影響を与え、企業収益の低迷による雇用不安や所得の伸び悩みから、個人消費も更に冷え込むものと思われます。

当食品業界におきましては、消費者の生活防衛意識の高まりや低価格志向が強まる中で市場環境は厳しい状況にあります。また、食の安全・安心など企業の社会的責任がますます求められていくものと考えております。当社グループ

におきましては、更に地域別・商品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施するとともに、前期と同程度の経常利益の達成を目指しております。また費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築・生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は 328,000 百万円、営業利益は 25,500 百万円、経常利益は 27,000 百万円、当期純利益は 15,000 百万円を見込んでおります。なお、対米ドルの換算為替レートは 98.23 円で想定しております。

経常利益の推移（百万円）



次期見込（2010 年 3 月期）

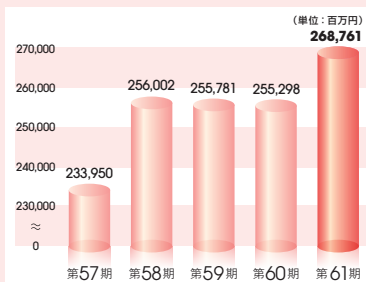
連結売上高 **328,000** 百万円

連結経常利益 **27,000** 百万円

連結当期純利益 **15,000** 百万円

加工食品部門

売上高 **268,761** 百万円



国内即席麺事業のカップ麺のうち、主力製品の和風麺においては、「赤いきつねうどん」の発売 30 周年記念として、「TU→YU モバイルデビュー! 新曲プレゼント」キャンペーンを実施し、「緑のためき天そば」を含め拡販を行いました。また、ノンフライ麺の主力製品である「麺づくり」においても「ノンフライカップ麺売上 No.1 キャンペーン」等を実施し積極的な販売促進を行いました。さらに、需要環境の変化に即応したオープンプライス商品群も取り揃え、販売の拡大に努めましたが、価格改定による市場環境の変化の中、カップ麺全体では微減となりました。袋麺においては、市況全般は低調な推移の中、家庭内食化の浸透に伴い、主力商品のノンフライ麺「昔ながらシリーズ」「屋台十八番シリーズ」等が貢献し、袋麺全体では微増となりました。ワンタン類においては、コンビニエンスストア向けに食事のサイドメニューとして「ワンタン しょうゆ味」が堅調に推移し、それに加えて「トレーワンタン」の伸びが増収につながりました。

生麺事業の売上は、新製品・リニューアル品の寄

与に加え、物価高騰及び経済不況の影響から家庭内食化傾向が高まったことにより、既存製品も好調に推移し前年を上回る結果となりました。

冷凍食品事業の売上は、市販用冷凍食品においては、度重なる食の安全・安心を揺るがす問題の影響で減収となりましたが、業務用冷凍麺・冷凍野菜の好調な推移により全体では前年を上回る実績となりました。

米飯事業の売上は、無菌米飯の販路拡大やレトルト米飯の新製品投入等により、好調に推移しました。その他加工食品においては、肉肉ハムソーセージ類も昨今の健康志向を反映して堅調に推移いたしました。また、調味料類は家庭内調理の増加により「だしの素」が堅調に推移した他、「チャーハンの素」シリーズの投入により売上を伸ばしました。

また、海外売上高は順調に推移いたしました。

これらの結果、加工食品部門全体の売上高は前連結会計年度に比べ 5.3% 増収の 268,761 百万円、営業利益は 38.1% 増益の 23,423 百万円となりました。

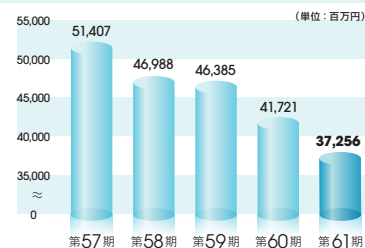
魚介類部門

売上高 **37,256** 百万円



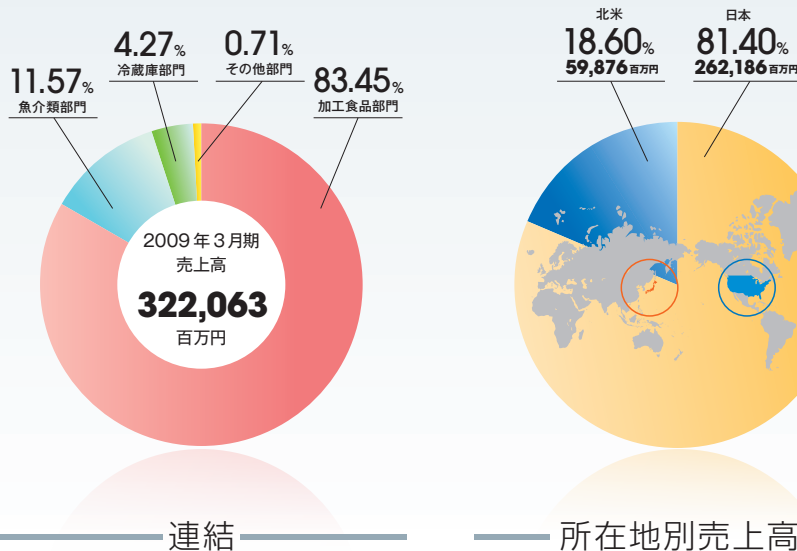
魚介類部門は、2008 年後半から世界経済が急速に悪化し、年末に向けての国内市況は低価格志向の傾向が顕著となり、年末商材といわれるカニ、有頭海老、ロブスター等の高価格帯の魚種の販売が伸び悩みました。そのような状況下、すり身、カニ等原料価格の上昇分を製品販売価格に転嫁できず販売単価が下落いたしました。その結果、売上高は前連結会計年度に比べ 10.7% 減収の 37,256 百万円、営業利益は前連

結会計年度に比べ 90.5% 減益の 143 百万円となりました。





売上高構成比・所在地別売上高

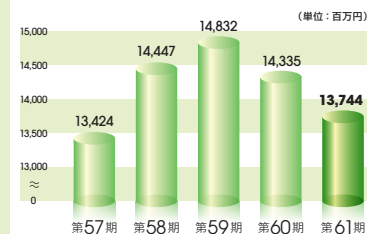


冷蔵庫部門

売上高 **13,744** 百万円



冷蔵庫部門は、景気後退に伴う国内消費の低迷により、各荷主が在庫量の圧縮を進めたことから、取扱数量が減少いたしました。量販店向け冷凍食品の取扱いを増やすなど、代替貨物の集荷に力を入れましたが、保管料収入が減少いたしました。この結果、売上高は前連結会計年度に比べ 4.1% 減収の 13,744 百万円、営業利益は 20.3% 減益の 726 百万円となりました。



その他部門

売上高 **2,299** 百万円

その他部門は、主に輸入牛肉・輸入加工食品の販売並びに不動産賃貸であり、売上高は前連結会計年度に比べ 32.1% 減収の 2,299 百万円、営業

利益は前連結会計年度に比べ 16.7% 減益の 699 百万円となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目		当期 2009.3.31	前期 2008.3.31
資産の部	流動資産 POINT01	113,424	100,532
	現金及び預金	33,000	29,833
	受取手形及び売掛金	39,191	39,276
	繰延税金資産	1,856	1,670
	その他	39,931	29,996
	貸倒引当金	△556	△244
	固定資産 POINT02	105,257	105,511
	有形固定資産	87,574	86,503
	無形固定資産	1,934	1,851
	投資その他の資産	15,748	17,155
資産合計		218,681	206,043
負債の部	流動負債 POINT03	44,529	41,218
	固定負債 POINT04	15,463	15,724
	負債合計	59,993	56,943
純資産の部	株主資本	154,727	144,114
	資本金	18,969	18,969
	資本剰余金	21,412	21,412
	利益剰余金	121,503	110,734
	自己株式	△7,157	△7,001
	評価・換算差額等	△7,697	△6,337
	その他有価証券評価差額金	△260	340
	繰延ヘッジ損益	0	△12
	為替換算調整勘定	△7,437	△6,666
	少数株主持分	11,658	11,323
	純資産合計 POINT05	158,688	149,100
	負債純資産合計	218,681	206,043

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当期 2008.4.1~2009.3.31	前期 2007.4.1~2008.3.31
売上高	322,063	314,744
売上原価	208,620	199,162
売上総利益	113,442	115,581
販売費及び一般管理費	88,464	95,359
営業利益	24,978	20,222
営業外収益	2,106	3,948
営業外費用	368	1,546
経常利益	26,716	22,623
特別利益	49	943
特別損失	2,293	2,051
税金等調整前当期純利益	24,473	21,515
法人税、住民税及び事業税	10,755	8,673
法人税等調整額	△699	308
少数株主利益	587	1,150
当期純利益	13,829	11,382

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当期 2008.4.1~2009.3.31	前期 2007.4.1~2008.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー POINT06	27,226	25,432
投資活動によるキャッシュ・フロー POINT07	△11,318	△6,518
財務活動によるキャッシュ・フロー POINT08	△3,572	△15,599
現金及び現金同等物に係る換算差額	△367	△2,612
現金及び現金同等物の増減額	11,967	701
現金及び現金同等物の期首残高	37,570	36,868
現金及び現金同等物の期末残高	49,537	37,570



連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2008 年 3 月 31 日残高	18,969	21,412	110,734	△7,001	144,114	340	△12	△6,666	△6,337	11,323	149,100
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△3,060		△3,060						△3,060
当期純利益			13,829		13,829						13,829
自己株式の取得				△155	△155						△155
連結範囲の変動			△0		△0						△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						△601	12	△771	△1,359	334	△1,025
連結会計年度中の変動額合計	-	-	10,768	△155	10,612	△601	12	△771	△1,359	334	9,587
2009 年 3 月 31 日残高	18,969	21,412	121,503	△7,157	154,727	△260	0	△7,437	△7,697	11,658	158,688

連結財務諸表 POINT

POINT 01 流動資産 流動資産は、前連結会計年度に比べ12,891百万円(12.8%)増加し、113,424百万円となりました。これは主に、有価証券が増加したことによるものであります。	POINT 02 固定資産 固定資産は、前連結会計年度に比べ254百万円(0.2%)減少し、105,257百万円となりました。これは主に、土地は増加しましたが、機械装置及び運搬具、投資有価証券が減少したことによるものであります。	POINT 03 流動負債 流動負債は、前連結会計年度に比べ3,310百万円(8.0%)増加し、44,529百万円となりました。これは主に、未払法人税等が増加したことによるものであります。	POINT 04 固定負債 固定負債は、前連結会計年度に比べ260百万円(1.7%)減少し、15,463百万円となりました。これは主に、退職給付引当金が増加しましたが、繰延税金負債が減少したことによるものであります。
POINT 05 純資産 純資産は、前連結会計年度に比べ9,587百万円(6.4%)増加し、158,688百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。	POINT 06 営業活動によるキャッシュ・フロー 営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ1,793百万円増加の27,226百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の増加によるものであります。	POINT 07 投資活動によるキャッシュ・フロー 投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ4,800百万円増加の11,318百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出の増加によるものであります。	POINT 08 財務活動によるキャッシュ・フロー 財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ12,027百万円減少の3,572百万円となりました。これは主に、前期において社債の償還による支出があったことによるものであります。



個別貸借対照表
(要旨)

(単位：百万円)

科 目		当期 2009.3.31	前期 2008.3.31
資産の部	流動資産	81,295	73,677
	固定資産	84,537	82,425
	有形固定資産	58,795	54,591
	無形固定資産	1,280	1,712
	投資その他の資産	24,460	26,120
資産合計		165,832	156,102
負債の部	流動負債	61,592	56,212
	固定負債	10,890	10,824
	負債合計	72,482	67,036
純資産の部	株主資本	93,650	88,761
	資本金	18,969	18,969
	資本剰余金	21,412	21,412
	利益剰余金	62,190	57,145
	自己株式	△8,921	△8,765
	評価・換算差額等	△300	304
	その他有価証券評価差額金	△301	312
	繰延ヘッジ損益	0	△8
	純資産合計	93,349	89,066
負債純資産合計		165,832	156,102

個別損益計算書
(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当期 2008.4.1~2009.3.31	前期 2007.4.1~2008.3.31
売上高	216,728	214,945
売上原価	128,222	123,432
売上総利益	88,505	91,513
販売費及び一般管理費	74,280	82,001
営業利益	14,225	9,511
営業外収益	2,220	2,917
営業外費用	587	1,519
経常利益	15,858	10,909
特別利益	38	862
特別損失	2,124	1,645
税引前当期純利益	13,771	10,126
法人税、住民税及び事業税	6,433	4,504
法人税等調整額	△767	425
当期純利益	8,104	5,196

個別株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本											評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 合 計
	資本金	資 本 剰 余 金			利益準備金	利 益 剰 余 金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計		固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金						利 益 剰 余 金 合 計	
2008 年 3 月 31 日残高	18,969	20,155	1,256	21,412	2,593	6,833	42,000	5,719	57,145	△8,765	88,761	312	△8	304	89,066
事業年度中の変動額															
固定資産圧縮積立金の取崩						△184		184	－		－				－
剰余金の配当								△3,060	△3,060		△3,060				△3,060
当期純利益								8,104	8,104		8,104				8,104
自己株式の取得										△155	△155				△155
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）												△614	9	△605	△605
事業年度中の変動額合計	－	－	－	－	－	△184	－	5,228	5,044	△155	4,888	△614	9	△605	4,283
2009 年 3 月 31 日残高	18,969	20,155	1,256	21,412	2,593	6,648	42,000	10,948	62,190	△8,921	93,650	△301	0	△300	93,349



フレーバーも充実 マルちゃん「焼そば 3人前」シリーズ

首位独走の3つの理由

たらこ焼そば調理例

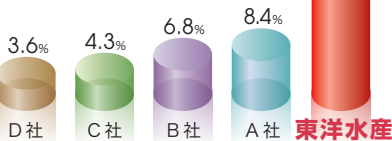


お馴染みのマルちゃん「焼そば 3人前」シリーズが、ますます好調です。その勢いは生麺部門の当期売上を前年比 112.6% にまで押し上げる、大きな原動力になりました。

29.2%



「焼そば 3人前」国内シェア
(株)インテリジェントデータ (2008.4~2009.3)



ロングセラー



焼そば 3人前

新定番



塩焼そば 3人前

新発想



NEW!
たらこ焼そば 3人前

3つの理由その01
フレーバーの多様化

1975年の発売以来変わらぬソース味で親しまれている「焼そば 3人前」。2002年には「塩焼そば 3人前」を発売し、順調にファンを獲得しています。さらに昨年8月には、食卓で人気の「たらこ」を焼そばにマッチさせた新発想の「たらこ焼そば 3人前」を発売し、大好評をいただいております。

3つの理由その02
新レシピを続々提案

「焼そば 3人前」シリーズのレシピを、店頭用リーフレットなどで積極的に提供しています。「ソース」「塩」「たらこ」と拡がったフレーバーバリエーションで、焼そばの喫食頻度の高い「昼食」向けの提案だけでなく、簡単調理で、夕食やお弁当のおかずとしてご利用いただけるメニューも提案しております。

3つの理由その03
キャンペーンでファン拡大

2009年春で4回目を迎えた、「必ずもらえる(ハローキティオリジナルストラップ)キャンペーン」は、多数のご応募をいただきました。また、2009年6月には、「焼そば」全商品を対象にした「焼そばスマイルキャンペーン」も実施し、「焼そば 3人前」シリーズのファン拡大に努めております。



会社概要

創立

1953年3月25日

本社

〒108-8501

東京都港区港南二丁目13番40号

電話 (03)3458-5111(代表)

資本金

189億6,952万円

従業員数

1,620人

事業所数

工場7、冷蔵庫13、

支店・営業所28

関係会社

33社(海外8社含む)

支店・営業所

- ◆札幌支店 (札幌支店、旭川営業所、函館営業所、帯広営業所)
- ◆東北支店 (仙台営業所、八戸営業所、盛岡営業所、秋田営業所、福島営業所、山形営業所)
- ◆信越支店 (新潟営業所、長野営業所)
- ◆北関東支店 (栃木営業所、茨城営業所、群馬営業所)
- ◆東京支店 (東京営業所、千葉営業所、埼玉営業所、神奈川営業所、甲府営業所)
- ◆静岡支店
- ◆名古屋支店 (名古屋支店、金沢営業所)
- ◆大阪支店
- ◆中四国支店 (中国営業所、四国営業所)
- ◆福岡支店 (福岡支店、沖縄営業所)

冷蔵庫

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| ◆札幌冷蔵庫 | ◆石狩冷蔵庫 | ◆大井埠頭冷蔵庫 | ◆平和島冷蔵庫 |
| ◆城南島冷蔵庫 | ◆東扇島第一冷蔵庫 | ◆東扇島第二冷蔵庫 | ◆東扇島第三冷蔵庫 |
| ◆名古屋冷蔵庫 | ◆神戸冷蔵庫 | ◆舞洲冷蔵庫 | ◆福岡冷蔵庫 |
| ◆佐賀冷蔵庫 | | | |

工場

- ◆札幌工場 ◆埼玉工場 ◆相模工場 ◆焼津工場 ◆田子工場 ◆神戸工場 ◆福岡工場

役員 (2009年6月26日現在)

- | | | |
|---------|----|----|
| 代表取締役会長 | 深川 | 清司 |
| 代表取締役社長 | 堤 | 殷 |
| 専務取締役 | 織田 | 睦彦 |
| 常務取締役 | 成滝 | 勝郎 |
| 常務取締役 | 小畑 | 一雄 |
| 取締役 | 目羅 | 甚一 |
| 取締役 | 谷口 | 文夫 |
| 取締役 | 佐藤 | 勝英 |
| 取締役 | 山内 | 寛 |
| 取締役 | 山下 | 透 |
| 取締役 | 三浪 | 博行 |
| 取締役 | 菅原 | 謙二 |
| 取締役 | 手嶋 | 専市 |
| 常勤監査役 | 北村 | 勝久 |
| 常勤監査役 | 南 | 守之 |
| 社外監査役 | 高良 | 明 |
| 社外監査役 | 森 | 勇 |

主要グループ企業

国内連結子会社

- ◆八戸東洋株式会社 ◆甲府東洋株式会社 ◆フクシマフーズ株式会社 ◆東洋冷凍株式会社
- ◆サンリク東洋株式会社 ◆株式会社酒悦 ◆新東物産株式会社 ◆東部貿易株式会社
- ◆伊万里東洋株式会社 ◆株式会社フレッシュダイナー ◆株式会社東京商社
- ◆銚子東洋株式会社 ◆ユタカフーズ株式会社 ◆石狩東洋株式会社 ◆ミツワデリー株式会社

海外連結子会社

- ◆MARUCHAN, INC. ◆MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- ◆MARUCHAN DE MEXICO, S.A. de C.V. ◆SANMARU DE MEXICO, S.A. de C.V.
- ◆PAC-MARU, INC.

非連結子会社 他

- ◆ヤイズ新東株式会社 ◆三幸養魚株式会社 ◆埼玉東洋株式会社 ◆湘南東洋株式会社
- ◆東和エステート株式会社 ◆スルガ東洋株式会社 ◆下田東水株式会社
- ◆海南東洋水産有限公司(中国) ◆湛江東洋水産有限公司(中国)
- ◆株式会社いらご研究所 ◆青島味豊調味食品有限公司(中国) ◆仙波糖化工業株式会社※
- ◆ヒガシマルインターナショナル株式会社

※持分法適用関連会社

株式の状況

発行可能株式総数…………… 427,000,000 株
発行済株式の総数…………… 110,881,044 株
株主数…………… 6,033 名

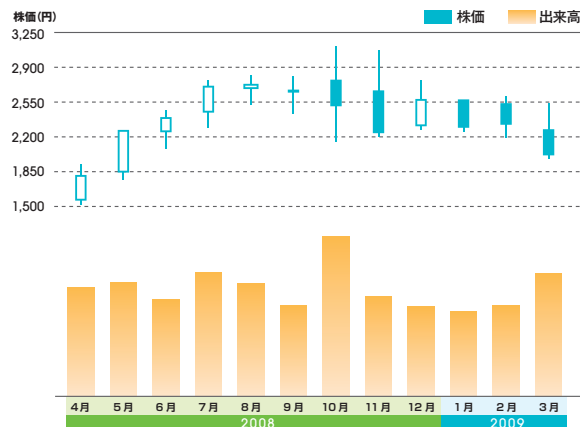
大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,779	5.67
日本トラスティサービス信託銀行株式会社 (信託口 4G)	5,024	4.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,989	4.89
株式会社三井住友銀行	2,900	2.84
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,417	2.37
マルちゃん持株会	2,021	1.98
あいおい損害保険株式会社	2,000	1.96
ビー・エチー・フォー・リアル・インシュランス・プロダクツ エフ・ティ・スリー・エム・アイ・ティー・キャップ・ポート	1,936	1.90
中央三井信託銀行株式会社	1,690	1.66
東友会	1,590	1.56

(注) 出資比率は自己株式 (8,904,401 株) を控除して計算しております。

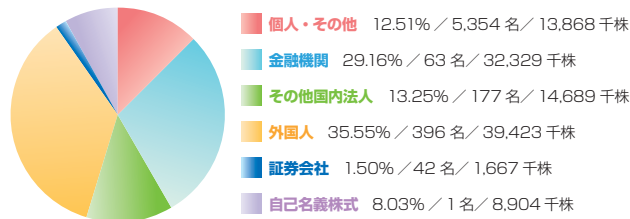
(注) 出資比率は小数点以下第 2 位未満を四捨五入して計算しております。

株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



株式分布状況

所有者別



所有株数別



株主優待制度



3,000円相当の製品例

当社は、株主の皆様への利益還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

今年につきましては、3 月末現在、1,000 株以上ご所有の株主様に対し、3,000 円相当の自社製品を、3,000 株以上ご所有の株主様に対し、5,000 円相当の自社製品をそれぞれ 6 月に進呈させていただきます。

配当金領収証で配当金をお受取の株主様へ

租税特別措置法の平成 20 年改正 (平成 20 年 4 月 30 日法律第 23 号) により、平成 21 年 1 月以降にお支払いの上場株式の配当等について株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

平成 21 年中に支払った配当金に係る「支払通知書」は、本年末または来年初に株主様に送付させていただきます。

なお、「支払通知書」は、確定申告を行う際その添付資料としてご使用いただくことができます。

●株式事務手続きのご案内

当社の株式事務を取り扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

●電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031

(操作方法は、音声案内にしたがってください)

●インターネットによるご請求

ホームページアドレス

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 アドレス http://www.maruchan.co.jp/
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

マルちゃんブランドの新スローガンです。

“食を通じ、みなさまに笑顔をお届けしたい”

私たち東洋水産グループは、その想いをマルちゃんマークに込め、品質とおいしさにこだわった食品づくりに取り組んでまいりました。

自然に笑顔がこぼれるようなおいしさを、食卓へ。

いつまでも変わらず、安心な製品を、世の中へ。

“すべては、笑顔のために。”

私たちはこれからも取り組んでまいります。

社会活動への取り組み

平成21年度マルちゃん杯 少年柔道大会



写真は近畿大会＜大阪市中央体育館＞/2009年4月19日(日)＞

東洋水産は、社会貢献の一貫として、柔道を通じて将来を担う子供たちの心身の健全育成のお手伝いが出来ればとの考えに立ち、1986年より、少年柔道大会を主催しています。平成21年度も近畿大会を皮切りに、東北、中部、九州、中国・四国、関東、北海道と全国7地区で大会を開催。各地で熱戦が繰り広げられています。

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.maruchan.co.jp/osirase/judo/2009/index.html>

TOYO SUISAN
東洋水産株式会社

住所 〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号
TEL (03) 3458-5111 (代表)
ホームページ <http://www.maruchan.co.jp/>



本冊子は、環境保全のため
再生紙を使用し、大豆油インキで
印刷しています。